つなぐ・拓く　鷺洲のカリキュラム・マネジメント

～授業力・学校力の向上をめざして～

松井　奈津子（大阪市立鷺洲小学校）・松山　恵（大阪市立鷺洲小学校）
三宅　貴久子（東京学芸大学）・黒上　晴夫（関西大学）・泰山　裕（鳴門教育大学大学院）

概要：本研究は，本校に所属する様々なキャリアステージにある教員が「子どもの資質・能力の向上をめざしたカリマネ」に取り組む認識を明らかにすることである。本校は「考える子の育成」を経て，生活科・総合的な学習の時間を軸としたカリマネに取り組んで２年目になる。公立小学校であるが故の弱みや強みを生かし，地域教材の開発や教員の指導力育成に取り組んでいる。全教員が共同して行うカリマネに対してどのような認識を持っているかアンケート調査及びインタビューを実施し，その結果分析をもとに，カリマネを「児童の資質能力の育成」「学校の人材育成」「学校力の向上」にどう生かすかを考察してみる。

キーワード：カリキュラム・マネジメント，資質・能力，キャリアステージ

１　はじめに

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」と「資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント」は，新しい学習指導要領の二つの柱として示され，各学校でその実現に向けた取り組みが進んでいる。

本校でも，平成 27 年度から「主体的に学ぶ・自分の考えを持つ・自由に考えを述べ合う（つぶやく）・思いを行動に移そうとする」児童の姿を描きながら，子ども主体の授業づくりに取り組んできた。さらに，平成 29 年度からは，「つなぐ・拓く　鷺洲のカリキュラム・マネジメント」をテーマに「カリキュラム・マネジメント」に研究の焦点を移し実践に取り組み始めた。

具体的には，生活・総合を軸にしたカリキュラムを編成し，実践を重ねることで，児童の資質・能力の育成を目指した。１年目は，生活科や総合的な学習の時間と各教科の学習とリンクさせ，単元計画を作成した。編成会議は年４回実施し，学年ごとにカリキュラム編成を行った後，全教員で結果を共有した。「各教科の学びを生活・総合につなげる」，「生活・総合の経験を教科学習につなげる」ことは，「主体的・対話的で深い学び」の実現にとって重要なことであり，６年間連続したカリキュラムという意識を教員が持つことができた。

このカリキュラムを基に，本年度は「資質・能力の育成」を意識したカリキュラム・マネジメントに取り組み始めた。昨年，編成した単元配列表に「どのような資質・能力を育成するか（育成できるか）」を重ねることで，より「主体的・対話的で深い学び」が実現できると考えたからである。

しかし，研究を進めて４か月で課題に突き当たった。それは，本校の児童に「育成すべき資質・能力」が十分絞り切れていなかったこと，２点目は，担当する子どもの実態や教員のキャリアによって「資質・能力」のとらえ方にも違いがあり，カリキュラム・マネジメントを進めるうえで障害になっているのではないかと考えた。

教員のキャリアの違いを生かし，また，前の前の児童の実態を踏まえた「資質・能力の育成」をめざすカリキュラム・マネジメントを，どうすすめればよいのかについて，調査を基に考察してみたい。

２　研究の方法

（１）　調査対象

本校教員　３３名（うち　講師２人）

経験年数	男性	女性
３０年以上	1	4
２０年以上	1	2
１０年以上	4	9
５年以上	1	4
２年以上	2	2
１年目	1	2

（２）　調査時期及び方法

①　各学年と特別支援学級　計７グループに対して「資質・能力の育成」を目指した編成ができているかどうかのアンケート調査を実施。

②　８月初旬に「新任教員」,「キャリア５年目以上の教員」7名に対してインタビュー調査。

（３）　調査内容

①　７月に行った２回目のカリキュラム編成会議の後,「資質・能力の育成」を目指したカリキュラム編成ができているかについて，次の３項目・記述式で調査した。

１）１学期の成果

２）１学期の実践の反省,

３）資質能力でつなぐことについての意見

このことにより,「資質・能力の育成」を目指したカリキュラム編成の現状と課題を明確にする。

②　キャリアと担当学年の異なる教員７名に対してインタビューを行い,「育成すべき資質・能力」のとらえ方に違いがあるかどうかを分析した。インタビュー調査では，主に次の３点について聞き取った。

１）「カリキュラム・マネジメント」に対する認識

２）「資質・能力」とは何かに対する認識

３）担当している児童にどんな力を育成することが重要と考えているか

このあと，聞き取った内容を分析し，教員のキャリアや教育観や意識の違いを検討した。

３　結果

（１）　アンケート調査（結果　表１）

１ 学期の実践を振り返り,「育成すべき資質・能力」を意識したカリキュラム・マネジメントについて，担当学年ごとに意見をまとめてもらった。

アンケートによると,「カリキュラム・マネジメントを進めたことにより,「育てるべき資質・能力を意識して，日々の指導を進めることができた」という意見や,「教科指導で獲得した知識・技能を，生活・総合の学習に生かすことができた。」など,「資質・能力の育成」を意識した指導が進められているいう意見があった。その一方で,「いつ，どのような資質・能力をつければよいかをもっと意識することが必要ではないか。」という意見もあり，今後の研修の進め方ついて検討が求められていることを感じた。

このアンケートは，担当学年ごとに記入してもらったため，個々の教員のキャリアや考え方が十分に反映されているかどうかが分かりにくかった。

そこで，アンケートに加えて，キャリアの違いによりどのような意識で「カリキュラム・マネジメント」に関わっているのかをさらに深く調査することにした。

（２）　インタビュー調査

調査は，複数の教員によるグループトークを行い，意識を明らかにしようと試みた。対象とした教員は，表２の通りである。

学校運営の中核となっている中堅教員グループと，キャリアの浅い教員グループが，インタビューの中で使った言葉や表現，子どもへの思いを分析し，違いを明らかにした。

表１　アンケート調査の結果まとめ

１） 資質能力を意識した「カリマネ」による１学期の実践成果	２）「カリマネ」を進めたにもかかわらず顕著になった課題	３）「資質・能力」でカリマネすることについての意見
・各教科で意識した「違いを見つける」,「文字を書く」などの力を活かして生活科でアサガオの観察カードが書けるようになった。 ・育てたい資質・能力（観察して書く）に注目して授業を進めたことで，教科の学習を生活科の学習に活かすことができた。 ・カリマネをしたことにより，日々の指導でも，「育てたい力」との関連を意識しながら指導ができた。 ・教科学習の中で，話し合い活動を繰り返し取り入れたことで，児童が根拠を明確にし，説得力のある主張を組み立てられるようになった。 ・カリマネをして，年間の単元計画を俯瞰したことにより，「いつ」,「どのような」資質能力をつけるのかを明確にして，日々指導することが大切さであることに改めて気付いた。	・「見つける」活動に含まれる「資質・能力」がわかりにくく，他教科とつなげるのが難しい。 ・生活・総合には，人的資源が重要であり，教師がコーディネートすることで児童の学びに向かう力がたかまるのではないかと考える。2 学期以降の準備を進めたい。 ・総合的な学習では，探究課題を設定させるのに時間がかかった。探究課題を設定するための資質や能力，環境設定などがもっと明確にカリキュラムに記入されていれば，ヒントになるかもしれない。 ・「資質・能力」そのものが明確でないため，カリキュラムの中で，何と何をつなげればいいのかがわかりにくかった。 ・どうしても指導内容に目が向き，育成すべき力に意識がいかなかった。	・鷺洲で育てるべき「資質・能力」を明確にしてほしい。 ・「資質・能力」の定義が明らかになれば，生活科と各教科をどう関連させながら育成するかが明らかになるのではないか。 ・日々の学習活動の中で，身についた（意識して指導した）「資質・能力」について振り返る活動を組み込むことが重要ではないか。 ・単元計画を研究部が回収して，学期ごとに検討するのではなく，学年打ち合わせなどを利用して，適宜，再検討するようにしたほうがいいのではないか。

表２　被験者と育みたい資質・能力

年齢・男女・経験年数・担当	子どもに身につけさせたい力
Ａ（３０代　女性　12 年目　６年担任）	主体性　相手を共感的に受け止める力　　行動力
Ｂ（３０代　男性　8 年目　４年担任）	責任感　行動力　チャレンジ精神
Ｃ（３０代　女性　９年目　６年担任）	話し合い考えを練り上げる力　伝え合う力　共感的に受け止める力
Ｄ（３０代　女性　７年目　５年担任）	話し合い練り上げる力　主体性
Ｅ（２０代　男性　初任者　３年担任）	個人の力をつける　話しあって解決する力
Ｆ（２０代　女性　初任者　１年担任）	学びに向かう力　個人の能力
Ｇ（２０代　女性　初任者　２年担任）	協調性　個の力を高める

① 中堅教員によるグループトーク

これまでに複数学年を担当したことがあり，教科指導のポイントについても十分理解している教員グループは，「自ら考え，活動できる」子を育てたいとし，そのためには，「他の人の意見を共感的に受け止める力」，「自分の考えを根拠をもって主張できる力」「見通しをもって，責任ある行動がとれる力」を育みたいなど，自律した子ども像が多く語られた。

カリキュラム・マネジメントに対しては，教科の指導内容を知っており，総合の単元構想と結び付けて指導できているとしながらも，本校が作成している単元構想表の中に「育むべき資質・能力」は見えにくいという声があった。

② キャリアの浅い教員グループトーク

キャリアの浅い教員グループからは，「教科を相互に関連付けて，資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの考え方」について，カリキュラム・マネジメントの作業を通して少しずつ理解を深めていることが伺えた。

５　考察

アンケートとインタビューの結果をもとに，指導法の向上・学校力の向上・資質能力の向上から考察してみた。

① カリマネを資質能力の向上に生かす

全教員が共同してカリキュラム・マネジメント取り組むことで，学校として育みたい児童の「資質・能力」が明らかになる。本校の実態を踏まえるなら，「主体性」「自力解決」「対話力」がキーワードである。この力を学年・学級に応じ，重点的に育むことで学校力の向上につながると考える。

② カリマネを指導法の向上に生かす

授業を通して育むべき「資質・能力」を学校全体で共有することで，どのように子どもを育てるとよいかという視点から，授業改善が進められる。どの学年，どの学級でも同じ方法で児童が考え，学ぶことにより，学校として「主体的・対話的で深い学び」が実現できる。

例えば，結果の分析からは「主体的に学びに向かう態度」や「対話的に学びを深める力」を求める教員が多く，これを学年に応じて育んでいくことが必要である。２学期以降の研究科活動では，この点に留意し，単元配列表の中に，具体的な「資質・能力」と，その力をどう育てるかを記載するなど改善してみたい。

③ カリマネを人材育成に生かす

二つの調査結果より，教員のキャリアにより「資質・能力」のとらえ方や，教科相互の結び付け方には違いがあることが分かった。多様なキャリアをもった教員が勤務するのが，公立校の強みでもある。子どもの実態に応じて柔軟に指導法を変え，重点の置き方を変更することを先輩教員から学びとっている様子がインタビューからわかった。例えば，「教科書を見たとき，他の教科とこういうふうに結び付けようと考えられるようになった」「最初は，意見が言えなかったけれど，２回目には，自分の授業を振り返って考えられた」などの感想もあった。カリキュラム・マネジメントの作業を１年の中で複数回実施することで，特にキャリアの浅い教員の資質向上・指導力の向上が期待できると考えている。

６　今後の展望

「カリキュラムをマネジメントする」という過程そのものが，学校力や指導力の向上につながっている。カリキュラムは，固定された教育課程ではない。教職員や児童の実態・状況に応じて，形を変え，重点を変え，方法を変えて存在するものと考え，今後の実践に生かしていきたい。

参考文献

田村学，錦織圭之介（２０１７）カリキュラムマネジメント入門，株式会社東洋館出版

文部科学省（２０１７）小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　総則編，株式会社東洋館出版